

## ISO 14034の今後の活用の方向性について（案）

### 例 1 : ある国（例えば、カナダや韓国）と 1:1 のパイプを築き相互実証を行う

#### 【メリット】

相互実証できる国で、日本での実証結果を使用できる。

#### 【問題点】

相互実証に係るニーズが不明。

相手国から日本への相互実証の依頼の方が多い可能性。

### 例 2 : 複数国のネットワークにおいて日本が積極的に技術を売り込む

#### 【前提】

実証を行った企業が技術を海外へ売り込もうとしている。

#### 【メリット】

マーケティング機会の提供。

#### 【問題点】

各国からも機会提供の依頼がありうる。

### 例 3 : ISO 14034 のガイドラインにおいて、日本の例を記載できるようにする。

#### 【前提】

英文で根拠を示した good practice のような資料がある。